

Gaia Philharmonic Choir

ガイア フィルハーモニック クワイア

第18回

定期演奏会

12.24 sun.

第一生命ホール

ご挨拶

GREETING

みなさま、メリークリスマス！

クリスマスイブの今日、みなさまとこうしてお会いできることを、大変嬉しく存じます。

イブのコンサート、ということで、今日のプログラムは、クリスマスに関連した曲、キリスト教の宗教曲を多く集めてみました。第3ステージで演奏する拙作は、直接宗教的な文言でテキストができているものではありませんが、その詩の内容から、私は、作曲する時に聖書の『創世記』が常に頭にありました。第1曲には、ラテン語の創世記を曲中に挿入しました。その意味では、この曲も一種の「祈り」を表現した組曲と言えるでしょう。

年の瀬迫るお忙しい中、本日は Gaia Philharmonic Choir 第18回定期演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。日頃より私たちの活動を支援してくださる皆様に、心より感謝申し上げます。

今回の演奏会では、「古今東西の名曲に取り組んでいきたい」という当団の想いととも、クリスマスをお祝いする楽曲を軸にプログラムを構成いたしました。ルネサンス期に書かれた教会音楽の不朽の名作から、昨年や今年初演されたばかりの話題の新作まで多彩な演目をお楽しみいただければと思います。

また、本日の第3ステージで演奏する「はじめに

また、今日は、ピアニストの水戸見弥子さんをお迎えし演奏しますが、最後のステージでは、水戸さんのあでやかなピアノソロもお聴きいただこうと思います。私たちからあなたへの、クリスマスプレゼントです。どうか、お楽しみになさってください。

世界は、残念ながら絶望の方向へと向かっています。祈ることを忘れてしまった昨今、今日くらいは、馬鹿騒ぎではなく、静かにこの世を省み、未来が愛と慈しみに満ちるよう、祈りを捧げたいと思います。

音楽監督・常任指揮者

松下 耕

……」は、今年出版され、7月に京都アルティ声楽アンサンブルフェスティバルで演奏した曲です。東京で皆様にもお聴きいただけること、大変うれしく思います。

最後になりますが、素晴らしいピアノを奏でくださるピアニストの水戸見弥子先生、そして、いつも私たちを丁寧に根気強くご指導くださる松下耕先生に深く御礼申し上げます。

本日は短い時間ではありますが、心温まる時間をお過ごしいただければ幸いです。どうぞ最後までお楽しみください。

団長

中村 俊幸

プログラム

PROGRAM

1st STAGE 祈りの合唱音楽

Hodie Christus natus est

作曲：Jan Pieterszoon Sweelinck

Nun komm, der Heiden Heiland

作曲：Martin Luther / 編曲：Ko Matsushita

Vom Himmel hoch, da komm ich her

作曲：Martin Luther / 編曲：Ko Matsushita

O magnum mysterium

作曲：Giovanni Pierluigi da Palestrina

2nd STAGE 3つの宗教的な歌 Op.69 作曲：Josef Gabriel Rheinberger

Morgenlied

Hymne

Abendlied

休憩

3rd STAGE 無伴奏混声合唱のための「はじめに……」作詩：長田 弘 / 作曲：松下 耕

樹、日の光り、けものたち

まだ失われていないもの

聴くこと

はじめに……

休憩

4th STAGE Christmas bouquet

All things bright and beautiful

作詩：Cecil Frances Alexander / 作曲：John Rutter

Every child has known God

作詩：Hafiz / 作曲：Ivo Antognini

Hodie Christus natus est -Santa Claus is flying to Tokyo!

作曲：千原英喜

「3つの夜想的情景 Op.72」より 星はまたたく

作曲：Selim Palmgren (ピアノソロ：水戸見弥子)

ロマンス Op.12

作曲：Oskar Merikanto (ピアノソロ：水戸見弥子)

Jingle, Bells

作曲：James Lord Pierpont / 編曲：Bob Chilcott

1st Stage

祈りの合唱音楽

Hodie Christus natus est

今日 キリストがお生まれになった

作曲：Jan Pieterszoon Sweelinck

Hodie Christus natus est: Noe.
hodie Salvator apparuit: Alleluia.
hodie in terra canunt Angeli,
lætantur Archangeli: Noe.
hodie exsultant iusti, dicentes:
Gloria in excelsis Deo. Alleluia. Noe.

今日 キリストがお生まれになった
今日 救い主が現れた
今日 地上で天使は歌い
大天使たちは喜び祝う
今日 正しいものたちはたたえて言う
天なる神に栄光あれ アレルヤ

解説

スウェーリンクはオランダの作曲家、オルガニストである。彼はヴェネツィア音楽に親交があり、金管楽器を連想させる器楽的なアプローチが垣間見える。

本楽曲に登場する単語「noe (ノエル)」は、現代では「クリスマス」を指す言葉であるが、「natalis (ラテン語で"誕生日"の意)」を語源としている。口々繰り出される"noe"は、救い主イエスの降誕を祝福する天使達のファンファーレと言えるだろう。

Nun komm, der Heiden Heiland

いま来たりませ

作曲：Martin Luther / 編曲：Ko Matsushita

1.Nun komm, der Heiden Heiland,
der Jungfrauen Kind erkannt,
dass sich wunder alle Welt,
Gott solch Geburt ihm bestellt.

2.Er ging aus der Kammer sein,
dem kön'glichen Saal so rein,
Gott von Art und Mensch, ein Held;
sein' Weg er zu laufen eilt.

3.Sein Lauf kam vom Vater her
und kehrt wieder zum Vater,
fuhr hinunter zu der Höll
und wieder zu Gottes Stuhl.

4.Dein Krippen glänzt hell und klar,
die Nacht gibt ein neu Licht dar.
Dunkel muss nicht kommen drein,
der Glaub bleib immer im Schein.

5.Lob sei Gott dem Vater g'tan;
Lob sei Gott sei'm ein'gen Sohn,
Lob sei Gott dem Heiligen Geist
immer und in Ewigkeit.

1 いま来たりませ、救いの主イエス、
この世の罪を あがなうために。

2 きよき御国を 離れて降り、
人の姿で 御子は現われん。

3 みむねによりて おとめにやどり、
神の独り子 人となりたもう。

4 この世に生まれ、陰府にもくだり、
御父にいたる 道を拓く主。

5 まぶねまばゆく 照り輝きて、
暗きこの世に 光あふれぬ。

6 御父と御子と 聖霊の主に、
み栄え 今も とこしえまでも。

讃美歌 21 229 番より引用

解説

宗教改革の中心人物、マルティン・ルターによるコラール。彼は作曲家でもあり、ルター派教会のために多くの讃美歌を作曲した。当時のカトリック讃美歌はラテン語の複雑なポリフォニーであり、彼はドイツ語の平易なメロディーに置き換えることで、民衆にも歌える讃美歌を生み出した。

本楽曲は待降節第一主日(12月1週目の日曜)に歌われ、また多くの作曲家により編曲されている。祈りの女声合唱から始まり、民衆の想いの高ぶりがポリフォニーによって、終盤には神への賛美が力強く歌われる。

Vom Himmel hoch, da komm ich her

天のかなたから

作曲：Martin Luther / 編曲：Ko Matsushita

1.Vom Himmel hoch, da komm ich her,
ich bring euch gute neue Mär;
der guten Mär bring ich so viel,
davon ich singn und sagen will.

2.Euch ist ein Kindlein heut geborn
von einer Jungfrau auserkorn,
ein Kindelein, so zart und fein,
das soll eu'r Freud und Wonne sein.

3.Es ist der Herr Christ, unser Gott,
der will euch führn aus aller Not,
er will eu'r Heiland selber sein,
von allen Sünden machen rein.

4.Er bringt euch alle Seligkeit,
die Gott der Vater hat bereit',
dass ihr mit uns im Himmelreich
sollt leben nun und ewiglich.

5.Des lasst uns alle fröhlich sein
und mit den Hirten gehn hinein,
zu sehn, was Gott uns hat beschert,
mit seinem lieben Sohn verehrt.

6.Ach mein herzliebes Jesulein,
mach dir ein rein sanft Bettelein,
zu ruhen in meins Herzens Schrein,
dass ich nimmer vergesse dein.

7.Lob, Ehr sei Gott im höchsten Thron,
der uns schenkt seinen ein'gen Sohn.
Des freuet sich der Engel Schar
und singet uns solch neues Jahr.

1. 天のかなたから はるばる来ました。
うれしい知らせを 伝えるためです。

2. マリアを母とし、まぶねにまどろむ
おさなごイエスこそ み神のひとり子。

3. 今こそ世界の 罪を救うため、
ここに現れた み神のあわれみ。

4. ようこそイエス様、お入りください。
わたしのまづしい 心の部屋にも。

5. 何をささげましょう、愛する主イエスに。
小さな祈りか よろこびの歌か。

6. まぶねの光は 暗闇を照らし、
感謝とよろこび 世界にあふれる。

7. 天使といっしょに たたえて歌おう。
「栄光は神に。世界に平和!」と。

讃美歌 21 246 番より引用

解説

同じくマルティン・ルターによるコラール。詩は 15 連で構成されており、マリアの処女懐胎、イエスの生誕、神への感謝讃美が物語形式で綴られている。彼が子供たちのために作曲したとされているが、クリスマスの日に語って聞かせていたのだろうか。

本楽曲は連ごとに異なる技法が組み込まれており、小アンサンブル、保続低音、低音の省略などにより場面のテーマを鮮やかに描き出している。

O magnum mysterium

おお、大いなる神秘

作曲：Giovanni Pierluigi da Palestrina

O magnum mysterium
et admirabile sacramentum
ut animalia viderent Dominum natum jacentem in praesepio.
Natum vidimus
et choros Angelorum collaudantes Dominum. Alleluia.

おお、大いなる神秘、
そして、驚くべき秘蹟よ。
かい葉桶に横たわり生まれたばかりの主を、動物たちが見るとは。
我々は降誕を見たのだ。
そして、天使の合唱が主を讃えるのを。アレルヤ

解説

ルネサンス期の最も著名な作曲家、パレストリーナによる6声部の作品。冒頭、4声から5声のホモフォニーはイエスの降誕という奇跡に対する喜びと畏怖を表している。彼は6声部を用いることによってポリフォニーの複雑さを拡張したが、緻密な計算によって不協和音を極力排除し、ハーモニーの美しさとコントラストの表現を両立している。パレストリーナの優れた作曲技術が伺い知れる、まさに芸術作品である。

2nd Stage

3つの宗教的な歌 Op.69

作曲：Josef Gabriel Rheinberger

解説

ラインベルガーは、スイスとオーストリアに囲まれた小国リヒテンシュタイン出身の後期ロマン派の作曲家である。7歳で教会のオルガン奏者となり、この頃から作曲も始め、ミサやモテットなどの宗教音楽とオルガン作品を中心にオペラや歌曲、交響曲など様々な作品を残した。「3つの宗教的な歌」はそれぞれ別の時期に作曲された作品が後にまとめられ、1873年に出版された。

Morgenlied 朝の歌

Die Sterne sind erblichen mit ihre güldnen Schein,
bald ist die Nacht entwichen,
der Morgen dringt herein
Noch waltet tiefes Schweigen im Tal und überall
Auf frischbetauten Zweigen singt nur die Nachtigall.
Sie singet Lob und Ehre,
sie singet Lob dem hohen Herrn der Welt,
der über'm Land, der über'm Meere
die Hand des Segens hält.
Er hat die Nacht vertrieben,
ihr Kindlein fürchtet nichts;
stets kommt zu seinen Lieben der Vater alles Lichts.

Kinderlieder / words by August Heinrich Hoffmann

金色の星たちは色褪せ、
まもなく夜は去り、
朝がやってくる。
深い沈黙がまだ谷をずっとどこまでも覆っている
朝露に濡れた枝のうででナイチンゲールだけが歌っている。
鳥は賛美と栄光を歌う。
鳥は高貴な世界の主に向けて歌い、
主は大地と海を
恵みの祝福で包み込む。
主は夜を追いはらった。
子供達よ、恐れることはない。
全ての光の父は神を愛するものにやってくる。

ホフマン「子供の歌」より

解説

無伴奏混声 6 部の作品で、テキストは 19 世紀に活躍したドイツの詩人、アウグスト・ハインリヒ・ホフマンによる。ホフマンは後にドイツ国歌となった詩を書いた人物でもある。
夜が明け、鳥が歌い、神の恵みに包まれる朝の訪れが、時に繊細に時にダイナミックに描かれた作品である。

Hymne 讃歌

Dein sind die Himmel,
und dein ist der Erde.
du hast der Welten Kreis,
hast die Fülle der Erde fest begründet;
Gerechtigkeit und der Wahrheit Kraft
sind die Pfeiler deines Thrones.

もろもろの天はあなたのもの、
地もまたあなたのもの、
世界とそこにあるものと
あなたがその基（もとい）をおかれたものです。
義と公平は
あなたのみくらの基（もとい）であります。

詩篇 89 第 11 節および 14 節より

解説

この作品のみ無伴奏混声 5 部合唱である。テキストは、詩篇 89 番の 11 節と 14 節からとられている。ト長調の響きは、教会のステンドグラスに降り注ぐ光のように明るく、オクターヴの跳躍による旋律から、敬虔なクリスチャンであったラインベルガーの信仰心を感じる。

Abendlied タベの歌

Bleib bei uns,
denn es will Abend werden,
und der Tag hat sich geneiget.

わたしたちと一緒に泊まり下さい
もう夕暮になっており
日はもはや傾いています。

ルカによる福音書 24 章 第 29 節より

解説

3 曲の中で一番有名な作品であり、この曲のみで演奏されることも多い。ラインベルガーが 16 歳の学生時代に作曲された無伴奏混声 6 部の作品である。テキストは、ルカによる福音書 24 章の「エマオへの道」による。イエスが処刑された後、二人の弟子が暗い顔をしてエルサレムからエマオへ向かう途中、見知らぬ男が現れて、二人の聖書への誤解を解く。やがてエマオに近づくが、男がまだ先に進もうとしたため「私たちと一緒に泊まり下さい。もう夕方になり、日も傾いています。」と引き留める。その後、夕食の最中に弟子たちの目が開き、男がイエスだと気付くが、その姿は見えなくなる。この作品は、弟子たちがイエスを呼び止めた言葉がテキストになっている。牧歌的で絶え間ない和声の流れが美しい名作である。



3rd Stage

無伴奏混声合唱のための「はじめに……」

作詩：長田 弘 ／ 作曲：松下 耕

解説

2000年に行われた、第67回NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部の課題曲として、『はじめに……』を書いた。その後、同じ長田弘さんの詩により、異なった機会に3曲の混声合唱曲が生まれた。

これらの4編の詩は、作曲家の生涯や作風にインスパイアされた言葉で綴られる詩集『黙されたことば』（みすず書房刊）の巻頭を飾る詩であり、各作曲家へのオマージュとして書かれた『黙されたことば』の各作品を俯瞰し、全ての作品に共通するイデオロギイや観点が、ある意味集約的に描かれている。詩集全体の根本的な理念が、これら4編の詩で語られているのだと思う。音楽が行う『聴覚で認識すること』の崇高さや真理を、感動的に綴っている4編と言えるだろう。

それぞれの曲も、共通した理念と書法をもって作曲されている。それは、非物理的、絶対的に永遠の實在を表現することであり、物欲、利欲に支配された我々人間世界の空虚、同時に厳格に顕される神（絶対的な愛の存在）からの啓示を同時に表現しようとした完全協和音程の多用である。



In principio creavit Deus caelum et terram

初めに、神は天地を創造された。

dixitque Deus fiat lux et facta est lux.

神は言われた「光あれ。」こうして光りがあった。

旧約聖書『創世記』1章1,3節より



樹、日の光り、けものたち

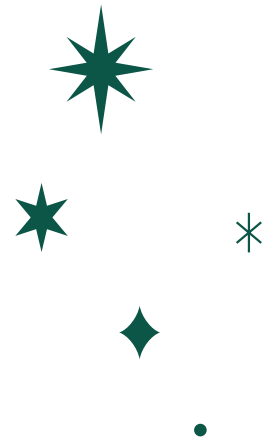
樹が言った。きみたちは
根をもたない。葉を繁らすこともない。
そして、すべてを得ようとしている。

日の光りが言った。きみたちは
あるがままを、あるがままに楽しまない。
そして、すべてを変えようとしている。

けものたちが言った。きみたちは
きみたちのことばでしか何も考えない。
そして、すべてを知っていると思っている。

樹は、ほんとうは、黙って立っていた。
日の光りは、黙ってかがやいていた。
けものたちは、黙って姿をかくす。

どこでもなかった。ここが、
われわれの居場所だった。
空の下。光る水。土の上。



解説

『樹、日の光り、けものたち』

劇的で印象的な完全5度の重層による冒頭部分には、旧約聖書・創世記冒頭に置かれた言葉―「初めに、神は天地を創造された／神は言われた／「光あれ。」／こうして光があった。」（創世記：1章1,3節）―をラテン語で引用した。この引用は、言うまでもなく、ここに作曲した4つのテキストに共通して内在する、そして私たちが忘れてはならない、人智を超えた存在への畏敬の表現のためのものである。

まだ失われていないもの

何かがちがってくる。
風があつまってくる。
陽差しがあつまってきて、
やわらかな影が、そこにあつまる。

見えないものがあつまってくる。
ふと、騒がしさが遠のいて、
それから、音もなく、
明るい塵があつまってくる。

すべてが、そこにあつまってくる。
花のまわりにあつまってくる。
ふしぎだ、花は。
すべてを、花のまわりにあつめる。

匂いのように、時間が
蜜のように沈黙が
あつまってくる。
ことばをもたない真実がある。

空の色、季節の息があつまってくる。
花がそこにある。それだけで
ちがってくる。ひとは
もっと率直に生きていいのだ。

解説

『まだ失われていないもの』

穏健で保守的な手法により、花というイノセントな存在、善なる存在を表そうとした。主調は変ト長調で、あたたかさや愛情の深さの象徴とした。和音、それは、融和の証。美しい和音、すなわち空間の創造のためには、各構成音の主張と協調、つまり、奇跡的に完成されたバランスが必要である。ことばも、和音も、私たちに大事なことを教えてくれているように思うのである。協調のバランスを保つのは難しい。崩れるのは一瞬である。私たちの住む世界も、また。

聴くこと

土が語ることば。泥が語ることば。
空のひろがり語るることば。石が語ることば。
遠くの丘が語ることば。巻雲が語ることば。

蜂が語ることば。老いた樹皮が語ることば。
バッタが語ることば。シャクナゲが語ることば。
昼には、川が、夜には、大熊座が語ることば。

耳かたむけるのだ。大事なことは、
見ることでなく、聴くことなのだと思う。
誰のためでもなく、誰のものでもないことば。

眼で聴く。そして耳で見るのだ。
けっして語ることばをしないものらが語ることば。
どこにもない傷口から流れ出すことば。

はじめに……

星があった。光があった。
空があり、深い闇があった。
終わりのなきものがあった。
水、そして、岩があり、
見えないもの、大気があった。

雲の下に、緑の樹があった。
樹の下に、息するものらがいた。
息するものらは、心をもち、
生きることは死ぬことを知った。
一滴の涙から、ことばがそだった。

こうして、われわれの物語がそだった。
土とともに。微生物とともに。
人間とは何だろうかという問いとともに。
沈黙があった。
宇宙のすみっこに。

※作曲にあたり、一部変更した箇所がある。

解説

『聴くこと』

冒頭部は弱音で奏されるが、その音の表情は重く、意味深長である。森羅万象の言葉、そのひとつひとつの名前が挙げられ、それらに「耳かたむけるのだ」と命じる部分で、二長調に定位する。「眼で聴く。そして、耳で見るのだ。」という、非常に含蓄のある言葉から先は、音楽は光芒一闪、急展開をみる。ドリア旋法で書かれたこの部分は非常に躍動的であり、決然とした表情を持つ。先に書いた、啓示の表現方法の一つである。

解説

『はじめに……』

以上3曲の総括とも言える楽曲である。冒頭部の Alto に保続される A 音は、チューニングの基準音であり、揺るぎない地軸、中枢のような役割をもってこの曲の主音として君臨する、最も重要な音である。曲は、一部を除き様々な旋法によって展開する。主たる拍子は8分の6拍子で、躍動的な律動感により劇的な音楽が作られている。

44小節からの部分で「こうして」という言葉が続出するが、この言葉に私は L.v.Beethoven の交響曲第5番のリズムモチーフを応用した。私たち人間と、この地球上のすべての生きとし生けるものの運命が、この詩のテーマだと考えるからである。

解説：松下 耕 無伴奏混声合唱のための「はじめに……」
(カワイ出版) 前書きより転載

4th Stage

Christmas bouquet

All things bright and beautiful

美しく輝けるもの全て

作詩：Cecil Frances Alexander / 作曲：John Rutter

All things bright and beautiful,
all creatures great and small,
all things wise and wonderful,
the Lord God made them all.
Each little flow'r that opens,
each little bird that sings,
He made their glowing colors,
He made their tiny wings.
The purple-headed mountain,
the river running by,
the sunset and the morning
that brightens up the sky.
The cold wind in the winter,
the pleasant summer sun,
the ripe fruits in the garden:
He made them every one.
He gave us eyes to see them,
and lips that we might tell
how great is God Almighty,
who has made all things well.

美しく輝けるもの全て
大きな生き物も小さな生き物も全て
賢明で素晴らしいもの全て
神がそれら全てを創り給う
花開く小さな花の一つ一つ
さえずる小鳥の一羽一羽
神は色づき育つ花を創り
神は鳥の小さな翼を創り給うた
赤紫色に染まった山の頂
行き交う小川の流れ
夕日と朝日
それは空を輝かせる
冬の冷たい風
心地良い夏の日差し
庭の熟した果実
おしなべて神がそれらを創り給うた
神はそれらを見るための目を与え給い
「素晴らしいもの全てを創り給うた
なんと偉大な全能の神よ」と
我々に言わしめる口を与え給うた

解説

ジョン・ラターは、イギリスの現代作曲家である。プロ合唱団のケンブリッジシンガーズを結成し、指揮者として数多くの録音も残している。讃美歌作家として活躍した女性詩人セシル・フランシス・アレクサンダーの詩は世界中で知られており、この詩は1848年に出版された「小さな子供のための讃美歌」に収められている。ラターの作品ならではのシンプルで流れるような旋律がとても魅力的で、色鮮やかな転調が美しく、私たちを温かく包み込んでくれる作品である。

Every child has known God

どの子も神を知っている

作詩：Hafiz / 作曲：Ivo Antognini

Every child has known God,
Not the God of names,
Not the God of don'ts,
Not the God who ever does Anything weird,
But the God who knows only four words.
And keeps repeating them, saying:
“Come Dance with Me, come dance.”

どの子も神を知っている。
名前をもつ神ではなく、
やっちはいけないことの神でもなく、
何か不思議なことをする神でもなく、
4つの言葉のみを知る神を。
そして神は4つの言葉を繰り返し口ずさむ。
「おいで、わたしと踊ろう、おいで、踊ろう。」

Translation by International Choral Organization of Tokyo

解説

イーヴォ・アントニーニは、スイスとイタリアの二つの国籍を持つ作曲家、日本でも大変人気があり、多くの合唱団が彼の作品を演奏している。ハーフィズは、14世紀に活躍したペルシアの詩人であり、ペルシア文学史上、抒情詩の最高詩人と評され、ゲーテにも大きな影響を与えた。この作品は2022年10月の「松下耕と世界 今を生きる作曲家の群像」にて女声合唱により初演され、今年8月に混声合唱版が初演された。作曲者は、ハーフィズの短い抒情詩のシンプルさと深遠さに魅了され、温かく慈愛に満ちた音を紡いでいる。アントニーニの珠玉の名作である。

Hodie Christus natus est – Santa Claus is flying to Tokyo!

今日キリストがお生まれになったーサンタクロースはTokyoに向けて飛行中!

作曲：千原英喜

Hodie Christus natus est:

今日 キリストがお生まれになった

Hodie Salvator apparuit:

今日 救い主が現れた

Hodie in terra canunt Angeli,

今日 地上では天使は歌い

laetantur Archangeli:

大天使たちは喜び祝う

Hodie exsultant justi, dicentes:

今日 正しいものたちはたたえて言う

Gloria in excelsis Deo, Alleluia.

天なる神に栄光あれ アレルヤ

Translation by International Choral Organization of Tokyo

解説

千原英喜は日本を代表する現代作曲家である。国内外に受賞歴を持ち、「千原ワールド」と呼ばれる独自の世界観による作品は、たくさんの人々を魅了し続けている。

この作品は、ルネサンス時代に多く作曲されていたパロディーミサからヒントを得て、日本人の作曲家としてアイデンティティある作品を書きたいという千原氏の想いから、北海道民謡のソーラン節が使われている。手拍子やタンバリンなども加わる、華やかなで喜びに満ちた作品である。

ピアノソロ 水戸見弥子

3つの夜想的情景 Op.72 より「星はまたたく」

作曲：Selim Palmgren

ロマンス Op.12

作曲：Oskar Merikanto

解説

クリスマスイヴには、サンタクロースの出身地フィンランドのピアノ曲を。。。。

北欧ピアノ作曲家としてはグリーグと並ぶ代表的な作曲家でもあり、国際的にも活躍した名ピアニスト、パルムグレン(1878-1951)が作曲した『3つの夜想的情景』より1曲目の「星はまたたく」。(2曲目「夜の歌」3曲目「曙」)

まばゆいばかりの透明感溢れる響きなのに鋭角的でないのは、変二長調の特権なのか? 北欧独特の光の描写なのか? 静寂の中に優しい温かみを感じずにはいられない。

3曲のオープニングで演奏されると、また違うイメージを持たれるはずなので、是非全曲聴いて頂きたい。

パルムグレンがピアノ協奏曲など骨太な作品を遺したのに対し、素朴な歌曲が多いメリカント(1868-1924)。

(民族独立以前のフィンランドでフィンランド語による最初のオペラを完成させた作曲家である)

『ロマンス』は、人懐っこく我々の隣りで寄り添ってくれるような幸せなメロディで酔わせるかと思えば、ショパン風(!?)な華やかな見せ場も用意してくれている。

大衆的と言われるのが、フィンランドではシベリウス以上に人気があるというのも納得の、ハートを奪われやすい作曲家である。

水戸 見弥子

Jingle, Bells ジングルベル

作詩・作曲：James Lord Pierpont / 編曲：Bob Chilcott

Dashing through the snow
In a one horse open sleigh
O'er the fields we go,
Laughing all the way
Bells on bob tail ring,
making spirits bright
What fun it is to ride and sing
A sleighing song tonight
Oh, jingle bells, jingle bells
Jingle all the way
Oh, what fun it is to ride
In a one horse open sleigh
Jingle bells, jingle bells
Jingle all the way
Oh, what fun it is to ride
In a one horse open sleigh

Now the ground is white
Go it while you're young,
Take the girls tonight
And sing this sleighing song;
Just bet a bobtailed bay
Two forty for his speed
Hitch him to an open sleigh
And crack! you'll take the lead,

雪の中を駆け抜ける
一頭立てのそり
駆け抜ける雪原に
ずっと続く笑い声
短いしっぽの鈴が鳴る
心を明るくしながら
なんて楽しいんだろう
今夜、笑ってその歌を歌う
ジングルベル ジングルベル
ずっと鳴り響け
ああ、なんて楽しいんだろう
一頭立てのそりに乗るのは
ジングルベル ジングルベル
ずっと鳴り響け
ああ、なんて楽しいんだろう
一頭立てのそりに乗るのは

外は雪の世界
ソリをするなら若いうち
今夜彼女を誘って
ソリの歌を歌おう
切り尾の馬に
2ドル 50 セント賭けて
ソリにつないで
ビチャリと打てば走り出す

解説

ジングルベルは定番のクリスマスソングで、日本でもこの時期によく耳にする作品であるが、原語の歌詞は若者たちが冬にソリで競争する様子を歌ったもので、クリスマスに関する内容は実は一切ない。ボストンの牧師であったジェームズ・ピアポントが教会の感謝祭のために作曲した作品である。本日は、イギリスの作曲家ボブ・チルクット編曲版で演奏する。チルクットならではの軽快なピアノ伴奏と、お洒落な合唱編曲をお楽しみ頂きたい。

プロフィール

PROFILE



松下 耕

Ko Matsushita

音楽監督・常任指揮者

1962年東京生まれ。作曲家、合唱指揮者。国立音楽大学作曲学科主席卒業。卒業後、ハンガリーに渡り、合唱指揮法及び作曲法を学ぶ。レメーニ・ヤーノシュ、モハイ・ミクローシュ他に師事。作曲家として生み出している作品は、合唱曲を中心として多岐にわたり、それらの作品は世界各国で広く演奏されており、同じく楽譜も、国内外で出版が相次いでいる。これまでに、国内およびポーランド、中国、台湾、香港において個展が開催された。2005年、合唱音楽における国際的かつ優れた活動が認められ、「ロバート・エドラー合唱音楽賞」をアジア人で初めて受賞した。2019年の国際コダライ協会のシンポジウムで基調講演を行った。また、2023年に同協会より選出され、名誉賛同者(Distinguished Patron)に就任。2023年、ポーランド宗教音楽研究所より、最優秀宗教音楽家として認定され、ワルシャワにて表彰された。一般社団法人東京国際合唱機構代表理事。



水戸見 弥子

Miyako Mito

ピアノ

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。同アンサンブル・ディプロマコース修了。母校の声楽科、二期会オペラ研修所の伴奏員を経て、現在はソロ・声楽・合唱・室内楽で、全国各地でのコンサートや録音、またカーネギーホール等の海外公演にも度々同行し、国内外で活発に演奏活動を行っている。

1999年、ヨーロッパで活躍するN.J. ジヴコヴィッチ作曲「Die Arten des Wassers」(水の種類)の日本初演後は、多くの共演者と新曲初演を担う。

東京・春・音楽祭での「バルジファル」「タンホイザー」、都響「第九」「イワン雷帝」等、様々なプロダクションの音楽スタッフを務め、文化庁「本物の舞台体験事業」では、ピアニストとして参加している。



上杉 清仁

Sumihito Uesugi

ボイストレーナー

高知県出身。千葉県松戸市在住。高知大学人文学部卒業。同大学院教育学研究科修了。東京藝術大学大学院修士課程、博士後期課程を修了し博士号(音楽)を取得。スイス政府奨学金を得てスイス・バーゼル音楽大学・スコラカントルムに留学し、ゲルト・テュルク、アンドレアス・ショル両氏のもとで研鑽を積む。しなやかで柔らかい美声と的確な解釈による多彩な表現には定評があり、日本を代表する実力派カウンターテナー歌手として活躍している。また、発声解剖学にも造詣が深く、日本全国で発声に関する様々な悩みを解消しており、発声指導者としても不動の信頼を得ている。これまでに声楽を小原浄二、野々下由香里、伊原直子、故戸田敏子、ペーター・コーイ、ロビン・ブレイズ、パスカル・ベルタン、故クラウス・オッカーの各氏に師事。声楽アンサンブル『ラ・フォンテヴェルデ』メンバー。カクウチ・デムジカ音楽監督、楽奏団あ・うん指揮者。日本声楽発声学会理事、日本音声言語医学会会員。昭和音楽大学講師。

Gaia Philharmonic Choir

ガイア フィルハーモニック クワイア



“Gaia”とは、ギリシア神話の大地の女神の名前。悠久の大地のように揺るぎない音楽を奏で、ともに歌いあうことで平和を祈りたいという思いから名づけられた。国内外の合唱団との交流に力を入れており、シンガポール、フィリピンの合唱団とのジョイントコンサート『THREE』を2006年から10年にわたって6回開催、交流を深めた。また、北海道の合唱団とのジョイントコンサート『Four Leaves Concert』を2016年より3回開催した。2001年及び2002年、全日本合唱コンクール全国大会にて金賞受賞。2014年、国際合唱コンクール Mundus Cantat に出場し、総合グランプリを受賞。2023年7月、京都アルティ声楽アンサンブル2023に招待合唱団として出演。

MEMBERS

Soprano

飯室 遥香
磯田 由季
鵜崎 真妃
蟹江 春香
鈴木 晴
関口 順子
大安 香澄
塚原 美奈子
森 美和子

Alto

相田 歩
池田 理帆
沖田 知恵美
阪口 加奈恵
谷 夏七星
野元 一葉
山本 真記子

Tenor

木崎 誠史
坂井 聡大
榊原 暁仁
富澤 佳央
根本 健一
山中 拓哉

Bass

菊池 捺夫
須藤 圭祐
田中 泰志
中村 俊幸
永田 秋人
深谷 章史
吉本 宗一郎

団員募集中

練習について

練習日 | 毎週日曜日 13-17時
会場 | 東京都内公共施設
団費/月 | 一般 3,500 円 学生 1,500 円
問合せ先 | gaiaphilharmonicchoir@gmail.com
公式 HP <http://gaia2001.com>
Instagram [@gaiaphilharmonicchoir](https://www.instagram.com/gaiaphilharmonicchoir)
Facebook [fb.com/GaiaChoir](https://www.facebook.com/GaiaChoir)
X (旧Twitter) [@GaiaChoir](https://twitter.com/GaiaChoir)

見学
大歓迎!

お気軽にご連絡
ください

- 松下 耕の指揮で歌ってみたい
- 大学卒業後の合唱団を探している
- 久々に合唱を再開したい
- プロの声楽家から発声を学びたい
- 国内外に演奏旅行したい
- 混声合唱の様々な名曲に触れたい

Special Thanks

舞台監督 | 安藤 嘉規

受付チーフ | 石井 里子

写真撮影 | 長谷川 恭子

チラシ・パンフレットデザイン | 大西 裕菜

ビデオ撮影 | 中部クリエイティブ